

編集 後記

平成最後の年が明けました。5月1日に新しい年号へと改元されるとのことで、昭和から平成に改元された時に比べて、現在はより多くの業務がコンピュータシステムに深く依存しているため、世の中に与えるその影響はいかほどであろうかと案じています。公衆衛生分野の業務や学術活動も和暦表記を使っているところは、システム改修などの影響を受けると思います。

さて、第66巻1号をお届けします。本号では、原著4編が掲載されています。これらの論文は、広大な領域を包含する公衆衛生学の学術誌にふさわしく、多彩な研究トピックを扱っています。関らは、家庭や学校で応急処置を受けた経験が、その後子どもたちの処置実践に強く影響する教育効果が存在することを明らかにしています。上原らは、早期産は次子出産の抑制要因になることを示して、子育て支援への示唆を与えています。堀井らの論文は、厚生労働省の標準的なキャリアラダーに照らして行政保健師の専門的能力を評価した初めての報告であり、専門的能力が多くの個人特性と関連することを明らかにしています。亀山らは、外国人介護者が日本人に比べて、コミュニケーション能力や社会的適応力が優れる一方で、長期就労の意向が低いことを明らかにしています。いずれの論文も、公衆衛生活動を向上するために活用できる科学的根拠を提供するものです。実践の現場での活用が期待されます。

ところで、すでにお気づきの方もおられると思いますが、今号から本学会のロゴマークが入る表紙デザインになりました。このロゴマークはクラウドソーシングを通じて集まった候補の中から選定されたものです。

日本公衆衛生学会が刊行する日本公衆衛生雑誌は、日本の健康問題を解決するための戦略や対策を考え、それを社会に実装するために必要な科学的根拠を集約する重要な場になっていると考えています。会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。(谷村 晋)

次号予告 (第66巻・第2号)

原著

- 乳幼児期における適切な時期の予防接種行動に関連した個人レベルおよび地域レベル要因の検討
.....大澤絵里, 他
- 親亡き後の精神障害者の地域生活を見据えた親の準備の解明.....吉岡京子, 他
- 要介護リスク高齢者と健常高齢者のポジティブ思考の比較検証.....白井みち代

公衆衛生活動報告

- 医療計画策定のための県域での入院医療実態調査
.....渡辺晃紀, 他